

目指す学校像	学校教育目標「未来に向かって力強く生きる ひとみ輝く 和土っ子の育成」の具現化に向け、児童、保護者、地域、教職員の「一人ひとりがキラリと光る」を目指す。
--------	--

重点目標	1 自分を大切に、相手を大切に学び合う学校 2 地域とともに歩み、信頼される学校 3 安心・安全で、きれいな学校 4 「チーム和土」でつくる持続可能な学校安全
------	--

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学校自己評価								学校運営協議会による評価	
年度目標								実施日令和5年2月6日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等	
1 学力向上	(現状) ○学習指導要領やさいたま市小学校教育課程編成要領等に基づき、教育課程を編成し、実施している。 ○基礎的・基本的な学習内容の理解に向け、日々取り組んでいる。 ○学習に真面目に取り組んでいる。 (課題) ○学ぶことの楽しさを十分に味わわせ、学びに対する関心・興味を高める必要がある。 ○シン・GIGAスクール構想として取り組んでいる、ICTを活用しながら、「教師が教える授業」から「児童が自ら気づき、学びとる授業」へ転換の推進が求められている。 ○自己肯定感を高めながら、粘り強く学習に取り組めるようすることが大切である。	・児童同士の学び合いを大切にしたい、分かりやすい授業の創出 ・ICTを活用して学ぶ楽しさを実感できる学習の創出	①児童個々に応じた学習支援 ②めあての明確化と振り返りの時間を確保 ③学習内容の定着と自信をもたせるためにICTを活用した練習問題の計画的な取組 ④授業改善を図るため教育委員会による学力向上カウンセリング研修の実施	①児童の学校評価 No11「粘り強い学習」で肯定的評価 92%以上、No12「わかりやすい授業」で肯定的評価 93%以上になったか。 ②学力向上カウンセリング研修の受講後、授業改善に取り組めたか。 ③めあての明確化と振り返りの時間を確保した授業に取り組むことができたか。	○具体的な方策を進めるとともに、学力向上カウンセリング研修、小学校体育授業研究会、金融経済教育等を通して職員の学びの機会が増え、指導力の向上につながった。○学校評価の児童No11では約94.9%で2.6p上昇、No12では約93.6%で0.7p上昇、保護者No4では約98.3%で3.3p上昇となった。	A	【課題】 自ら学ぶ児童を育てる。 【改善策】 ○さらなる児童理解に努め、児童一人ひとりに応じた指導と支援の推進 ○児童と教師がともに学び合う授業の推進○学習規律の徹底	・学校評価の児童 No11、No12の価、保護者の No4 の評価は、学校全体の取り組みの成果である。引き続き努めてほしい。 ・学びのポイント「じ・し・や・く」やICTを活用して、一人も取り残さない授業や指導に引き続き努めてほしい。	
									・一人ひとりのよさを認め合う豊かな人間関係づくり ・児童に安心と潤いを与える教育環境の整備
2 安心・安全	(現状) ○クラス替えがなく、お互い分かり合っている様子が見られる。 ○児童一人ひとりに声をかけ、目を配り、安心できる信頼関係の構築に努めている。 ○日々の校内巡視と計画的な安全点検を実施している。 (課題) ○良好な友達関係を築き、継続できるようにすることが大切である。 ○保護者との連携を大切に、共通理解を図る必要がある。 ○児童の得意分野を伸ばし、自信を育てる指導を行い、自分の夢に向かって努力する心を養う。 ○安全に対する意識を向上させ、事故防止に備えるとともに、万が一事故発生した際には適切な行動がとれるようにする必要がある。 ○木々が多くあるため、計画的な樹木剪定が必要である。	・一人ひとりのよさを認め合う豊かな人間関係づくり ・児童に安心と潤いを与える教育環境の整備	①児童一人につき年2回の面談 ②日常生活におけるコーチングを取り入れた児童との面談 ③児童に対する積極的な称賛の言葉がけ ④和土小スマイルプロジェクトの着実な実施 ⑤年2回の個人面談の実施と、学習予定表に学級の様子の掲載	①児童の学校評価 No1「学校へ行くのが楽しい」で肯定的評価 92%以上になったか。 ②コーチングを取り入れた面談が実施できたか。 ③児童の学校評価 No15「先生の称賛」で肯定的評価 95%以上になったか。 ④和土小スマイルプロジェクトが実施できたか。	○和土小スマイルプロジェクト等具体的な方策を着実に進めてきた。年2回以上の面談等にも取り組むとともに、具体的な称賛にも努め、児童に寄り添った指導や支援に努めてきた。○児童の学校評価No1「学校へ行くのが楽しい」では約87.9%で2.4p低下。No15「先生の称賛」では約93.0%で3.1p低下。	C	【課題】 児童とのふれあいを一層大切にする。 【改善策】 ○児童とのコミュニケーション(会話やふれあい等)の一層の推進○凡事徹底・率先垂範○自立と挑戦を促す指導の推進○毅然とした指導の推進	・単学級の学校のため、学級内の人間関係が密になり、またマンネリ化にもなってしまう。緊張感のある人間関係も必要だと思うので、十分に配慮していただきたい。 ・児童の学校評価 No1 は、いろいろと課題はあると思うが、100%になるように努めてほしい。 ・コロナ禍が終わり、多くの行事が行われるようになったことはよかったと思う。 ・先生方の誉めて伸ばす指導を常に心がけてほしい。 ・樹木剪定は、地域としても心配している。教育委員会に引き続き働きかけてほしい。	
									・和土地域で育てたい子ども像の共有 ・児童・保護者・地域の方々・教職員の心に残る開校150周年記念事業の推進
3 地域と歩む学校	(現状) ○学校運営協議会を各学期に一度開催できている。「あいさつ」の大切さを共有している。 ○開校150周年の思いを共有している。 ○異校種(保・中・高)間の交流ができている。 (課題) ○和土地域で育てたい子ども像を共有することが大切である。 ○地域で子どもを育てる考えのもと、小・中一貫教育を推進する必要がある。 ○教育活動を保護者や地域の方々に公開し、児童の姿を見ていただく機会を増やす必要がある。	・和土地域で育てたい子ども像の共有 ・児童・保護者・地域の方々・教職員の心に残る開校150周年記念事業の推進	①和土地域で育てたい子ども像を共有するための熟議 ②異校種(保・中・高)間の交流の着実な実施 ③小・中一貫教育の取組の推進	①和土地域で育てたい子ども像を共有できたか。(1月末) ②小・中一貫教育の取組に工夫・改善ができたか。	○実行委員会の協力の下、150周年記念式典等の諸行事を無事終えることができた。節目を祝うことができ嬉しい、心に残る一年になったという声が児童や保護者・地域の方々から届いている。○学校だよりにより和土小の歴史の記事を掲載でき、保護者や地域の方々に支えられてきたことを広く紹介できた。	A	【課題】 和土地域のアイデンティティを育てる。 【改善策】 ○育てたい子ども像の具現化に向けた方策の検討○新しい小・中一貫教育の推進○地域のの方々や施設との連携の推進	・学校、家庭、地域が協力して、和土っ子を育てていきたい。 ・開校150周年記念事業は、大変素晴らしい声も聞けることができた。喜びの声を聞くことができ、嬉しい限りである。 ・和土地域を学び、よさを発信したり、和土地域の人と学んだりする機会を作れるとよいと思う。それらを通して、和土地域のアイデンティティの育成に努めてほしい。	
									・主体的な教師の学びの推進 ・ワークライフハーモニーをつなぐ業務改善の推進
4 教職員の資質向上	(現状) ○自尊感情、自己肯定感を高める学習指導に関する学校課題研究に取り組んでいる。 ○小規模校としての業務改善を進めている。 (課題) ○学びの変化やICTの活用、児童対応等に対して、指導力の向上が求められている。 ○ICTを活用した業務改善が求められている。 ○成長が実感できる研修が求められている。 ○対話に基づく受講奨励を通して、主体的な教師の学びに取り組む必要がある。	・主体的な教師の学びの推進 ・ワークライフハーモニーをつなぐ業務改善の推進	①ICTを活用した授業の管理職による1単位時間の授業観察 ②教職員同士の年2回以上の授業参観 ③対話に基づく受講奨励による、主体的な教師の学びの推進	①ICTを活用した授業の管理職による1単位時間の授業観察が学期1回以上できたか。 ②教職員同士の年2回以上の授業参観ができたか。 ③受講奨励に基づく研修に取り組めたか。	○管理職による1単位時間の授業参観を計画的に進めてきた。○1単位時間の職員同士の年2回以上の授業参観を推進した。○職員と相談し、受講奨励に基づく研修を進めてきた。また研修会に参加した職員から研修内容の周知や伝達が行えた。	B	【課題】 SSSPの活用を推進する。 【改善策】 ○SSSPの理解と活用の推進○校内研修を刷新し、職員の学び合いの推進○受講奨励のさらなる推進	・児童の様子を先生たちの目で見つくりと見て、声をかけ、話を聞くことを引き続き努めてほしい。	
									・主体的な教師の学びの推進 ・ワークライフハーモニーをつなぐ業務改善の推進